



学びの高嶺

校訓 感謝・努力・友愛

北九州市立高見中学校
学校だより 第13号
令和7年12月12日(金)
校長 若松 英昭

小さな親切運動

自ら判断・行動し、
楽しく挑戦!

ひとり暮らしの高齢者への年賀はがき作成

本校では1年生が「小さな親切」運動に協力し、八幡東区のひとり暮らしの高齢者の方へ送付する年賀はがきを作成しました。作成した年賀はがきは「小さな親切」運動北九州市本部 八幡東区支部にお渡しし、そこから高齢者の方へ送られます。受け取っていただいた方に大変喜んでいただいている。

1963年（昭和38年）3月の東京大学の卒業式で、茅誠司（かやせいじ）総長（当時）は卒業生に向けて次のような言葉を送りました。

「“小さな親切”を、勇気をもってやっていただきたい。そしてそれが、やがては日本の社会の隅々までを埋めつくすであろう親切というなだれの芽としていただきたい。

大学で学んだ様々な知識や教養を、ただ頭の中に百科事典のように蓄えておくだけでは立派な社会人とはなれません。

その教養を社会人としての生活の中に生かしていくには、やろうとすれば誰でもできる“小さな親切”を絶えず行っていくことが大切です。

“小さな親切”はバラバラな知識を融合させる粘着剤の役目を果たすのです」

「小さな親切」運動は、茅誠司と、この卒業告辞に感銘を受けた人々が提唱者となり、卒業式から3ヶ月後の6月13日にスタートしました。同時にこの運動を推進する事務局として、「小さな親切」運動本部が発足しました。

現在「小さな親切」運動本部は、「小さな親切」を前提とする社会道義の確立に寄与することを目的に、全国32道府県本部、129市町村支部とともに、次世代を担う青少年をはじめ広く国民の間に「小さな親切」の心を育てる様々な活動を行っています。



写真が小さいですが、1枚
1枚心のこもった年賀はがきに仕上がっていました。



公益財団法人「小さな親切」
運動本部ホームページより



2台設置されました。

美術室にエアコンが設置されました

12月初旬に設置工事が始まり、エアコンが美術室に設置されました。これから寒くなりますが、美術室での授業も教室同様、これから温かい中で授業を実施できるようになりました。

第16回いっしょに読もう！新聞コンクール

Sさん 優秀賞（全国2位）

全校で「新聞記事を読み、他の人と意見交換後、自分の考えをまとめる」取組を、国語科の授業や夏休み課題で行い応募をしました。

その結果、3年 S さんが優秀賞（全国2位）を受賞しました。

また、奨励賞を2年 T さん、3年 G さんの2名も受賞しました。

（全国で最優秀賞1名、優秀賞10名、奨励賞38名）

さらに、全校で取組が認められ、学校奨励賞（全国の小中高校合わせて128校）もいただきました。優秀賞を受賞したSさんの受賞作を紹介します。

福岡県 北九州市立高見中学校 3年 Sさん

意見を聞いた人：友人

記事見出し：【リアル過ぎる？絵文字 あなたは…】（西日本新聞 2025年5月23日付朝刊）

(1) 記事を選んだ理由、記事を読んで思ったこと、考えたこと

私がこの記事を選んだ理由は、ジェンダー問題という部分に目をひかれたからだ。この記事を読みピクトグラムについて興味が持てた。外出するとよく見かけ、そのピクトグラムがジェンダー問題に配慮されていないという意見から、市の認知症の人にも分かりやすいデザインにしたという意見で私のピクトグラムへの見方が変わった。ジェンダー、LGBTQ の問題に目を向けがちだと思った。もっと多くの視点で物事を捉えようと思った。

(2) 家族や友だちの意見

3人の友人から意見を聞きとり、このような意見が挙げられた。「お互いの考えを両立させる策を出すのはとても難しい」「若い世代では認知症よりもジェンダー問題に敏感でこの表示に不快を感じる声が多くあがるのに納得だった、自分も思わず違和感を抱いてしまった」などと他の意見もうなずくものばかりだった。

(3) 話し合った後の意見や提案・提言

私は改めて、このピクトグラムをジェンダー問題だけで変えてはいけないと思った。私たちの世代は特にジェンダー問題に敏感で慎重なので、認知症の人という他の視点から物事をみた時、納得させられる部分が多くあった。これらのことから私は、男性トイレのピクトグラムを「立ち小便をする人間」と「座って小便をする人間」どちらもかけば、ジェンダー問題と認知症の人のために二つの意見を取り入れることで、リアル過ぎる男性のトイレのピクトグラムだが、認知症の人の排せつ失敗を防ぎ、外出を楽しんでもらいたくこの案が思い浮かんだ。この記事から日ごろ考えないことを考えさせられ、とても貴重で有意義な時間となり外出する際の街の見え方が変わった。街にあふれているさまざまな問題や疑問に思うことをみつけられるよう、スマートフォンという小さい画面をしまおうと思う。これから、ジェンダーレスや認知症などの問題を自分で調べ学ぼうと思えた。